

開校49周年 児童一人ひとりを確実に伸ばす慈林小学校



# 慈林小だより



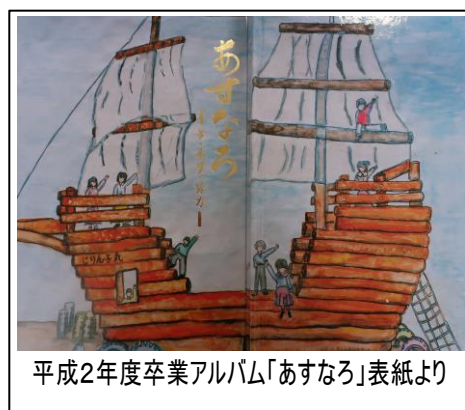
令和7年度5月号 令和7年4月30日

## 慈林小ブランド

校長 石原 昌治

校庭の木々の新緑が、一段とまぶしく、初夏の爽やかな風を感じる季節となりました。新学期が始まり1か月が経ち、子供たちは新しいクラスの先生や友だちと共に、勉強に運動に張り切って取り組んでいます。4月23日に実施した「1年生を迎える会」では、各学年の児童たちが、一年生に向けて、どれだけ慈林小が素敵な学校なのかを伝え合いました。きらきらした瞳で、心を合わせ、慈林小の自慢をする児童たちを見ていると、「慈林小ブランド」が児童たちに代々受け継がれ、しっかり根付いているのだと感動します。

他校の先生たちに、慈林小のシンボルについて聞くと、多くの方が「じりん子丸」と答えます。ご存じの方も多いと思いますが、「じりん子丸」は、開校10周年記念事業として保護者・地域の皆様の力を結集して建造された丸太アスレチック帆船です。完成した帆船は、全長16メートル、マストを含む高さは12メートルの堂々たる大きさでした。昭和61年11月21日の進水式並びに引き渡し式には、多くの報道機関の取材を受け、各紙に報じられたそうです。校長室に保管されている当時の慈林小PTA広報誌からは、じりん子丸建造に携わった皆様の、子どもたちを思う愛情と熱意が伝わってきます。



平成2年度卒業アルバム「あすなろ」表紙より

当時のPTA会長 田中 親男 様 が広報誌に寄稿された記事によりますと、「海のない埼玉、船を作って子どもたちに大きな夢を与えよう。世界に目を向ける心の広い人間になって貰いたい。」そんな思いから船を作ることとなったそうです。およそ1か月以上にわたり大勢の保護者や地域の皆様がじりん子丸建造に協力し、完成に至りました。作業のための立ち入り禁止のロープが外されると、子どもたちは大歓声を上げて次々とじりん子丸に飛び乗りました。きらきらと輝く子どもたちの笑顔が、目に浮かんできます。

これまで、多くの子どもたちを見守ってきたじりん子丸ですが、老朽化により、この夏をもって最後の時を迎えることとなりました。形がなくなっても、多くの方々の思いを乗せたじりん子丸は、これからもずっと、未来という海原に漕ぎ出す子どもたちと共にあります。慈林小の子どもたちには、じりん子丸を通して先人の思いや願いを受け継ぎ、「慈林小ブランド」を大切にしながら、心豊かなたくましい人に成長してほしいと切に願います。

慈林小学校では、5月28日(水)に田中親男様をお招きして、「じりん子丸お別れ集会」を開催します。また、7月28日(月)～8月1日(金)を、「じりん子丸お別れ週間」として、記念撮影をしていただけるようにします。詳しくは、次ページをご覧ください。